

令和6年度阿南市地域公共交通活性化協議会 第2回会議 議事録

日 時 : 令和7年1月10日(金) 10:00~11:15

場 所 : 阿南市役所3階 303会議室

出席者 : 【委員】

阿南市 副市長(会長)	平井 琢二
阿南市 特定事業部長	高山 秀樹
阿南市 保健福祉部長	荒井 啓之
徳島県交通政策課 係長	山田 知成
徳島バス(株) 企画管理部 企画課 課長補佐	中野 貴志
四国旅客鉄道(株) 徳島企画部長	荒井 隆
毎日タクシー(有) 代表取締役	畠山 頼彦
伊島連絡交通事業(有) 代表取締役	神野 梅夫
四国地方整備局徳島河川国道事務所 専門職	岡井 大三郎
徳島県南部総合県民局(阿南) 県土整備部部長	佐野 功
阿南市 建設部長	柳川 克一
阿南警察署交通課 課長	宮本 輝正
阿南市民生児童委員協議会 会長	撫養 千尋
阿南市セニアクラブ 会長	吉田 忠彦
四国運輸局徳島運輸支局 首席運輸企画専門官(輸送・監査)	齊藤 信一郎
四国運輸局徳島運輸支局 首席運輸企画専門官(総務・企画観光)	山崎 良太
徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 准教授	兵頭 知

【阿南市】

阿南市 政策監	東條 盛彦
---------	-------

【事務局】

(都市政策課) 清原 課長、岡田 主査、今西 係長、下村 事務主任

欠席者 : 利用者代表

小川 美紀

議 事 :

- (1) 阿南市地域公共交通活性化協議会の運用見直しについて
- (2) 令和6年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価(一次評価)について
- (3) その他

1. 開 会

(阿南市長)【市長あいさつ】

2. 議 事

議事 1. 阿南市地域公共交通活性化協議会の運用見直しについて

(事 務 局)【阿南市地域公共交通活性化協議会の運用見直しについての説明】

(全 委 員)【質疑応答なし】

(会 長) 特にご意見もないようですので、原案どおり承認してよろしいか。

(全 委 員) 異議なし。

(会 長) 異議なしということで、原案どおり承認します。

議事 2. 令和 6 年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価（一次評価）について

(事 務 局)【令和 6 年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価（一次評価）についての説明】

(委 員) 令和 5 年 1 1 月と令和 6 年 7 月に乗降調査を行っているが、これまでの推移として、どれぐらい前からデータを取っているのか。

(委 員) 子会社の徳島バス阿南が走っていたこともあり、今データとして手元にあるのは昨年 10 月から走り出したところの分だけになる。

(委 員) 今後も継続的に同じ時期にデータを取っていくような予定か。

(委 員) その予定である。

(委 員) データの見える化を進めると今後計画と目標を立てる根拠となるような数字になると思うので、今後も推移やどういう効果があったかということをお場で検証してもらえたらと思う。

(会 長) 他にご意見もないようですので、原案どおり承認してよろしいか。

(全 委 員) 異議なし。

(会 長) 異議なしということで、原案どおり承認します。

議事 3. その他

(会 長) それぞれのお立場から現状報告や最新情報の提供など忌憚のない話をいただきたい。

(委 員) 阿南市循環バス路線などで収支率等が前年比を下回ったことについて、乗務員の労働環境の改善、乗務員不足からくる雇用促進もあり、給料の賃上げなどがある。燃料や物価が高騰しており経費の収支率が若干悪くなり

申し訳ないが、これからも若干進んでいく可能性があるのご協力いただきたい。

- (委員) 3月15日土曜日にダイヤ改正する。牟岐線で特急むろとの朝の上り一本と夜の下り一本を削減という形で実施する。以前はご利用状況が少ない列車や朝夕の通勤の時間帯を避けたお客様に影響のより少ないところで削減していたが、昨今の労働力不足、乗務員不足というところもかなり逼迫している状況が続いている中で、働く環境も考慮し今回特急列車2本を削減する形となっている。削減するだけでなく前後走っていた普通列車についても特に朝夕に時刻の修正等があり、運転時間が早くなる列車や反対に行き違いによって時間が繰り上がる列車もある。その他徳島県内関連では特急うずしお、高德線の方の最終の上り便も削減という形となり、また徳島線の特急剣山も朝夕一本ずつ削減という形で各路線時刻の修正多々あるので、ご確認をお願いしたいと思う。

- (委員) 大湊－阿南駅前間をお客さんの希望によって車を動かしているが、従業員もやっと板についてきて5名の人間で交代により対応している。

私がいつも心配しているのは、那賀川町の国道55号線より海寄りの色ヶ島とかの方面のお客さんがすごく不便になっており、私の方もそこまで行ってくれる運転手がいらない状況。だから、どこか駐車場を借りて対応したらどうかという話が運転手の方からあがっている。那賀川町の方で医療センターやフジグランに来るとするのは対応できるが、那賀川町内の往復はなかなか対応できない。だからそれは乗ったお客さんが嘆いている。那賀川町の方のタクシーがいらない。

私偶然にもナカちゃん号の後ろを通勤のときについてた際に、子供がおじいちゃんと一緒にバス待っていたが、ナカちゃん号が来たら小躍りしていた。だから子供にはナカちゃん号はウケがいい。年配の人も小躍りしてもらえるような何か方法がないかなと思った。子供に人気があって大人たちに人気がないのは何かなというようなことを考えた。

- (委員) 連絡船の定期ドックが毎年あり、去年は11月の中の10日くらいで、期間中に海上タクシーで運行したのが4、5日。あとは天気が悪くてほとんど動かなかった。その期間中、漁師はほとんど自家用船を持っているので天気が悪くても行けたが、年寄りの人とかは小さい船に乗らないとこっちまで買い物とか病院とか行けないような状態だった。そうなっているのは知床の事故から連絡船の代替船は同等の船でないということだが、そ

のような船はこの近辺に運輸局の人からもないと言われている。伊島の人
は定期ドックのときは大変困るので、市の方でよろしく願います。

(委員) 高齢者とか立場の弱い方が公共交通機関を利用する頻度が非常に高いと
思う。出来るだけ便数を減らさないように、最低限今の便数を確保してい
ただきたいと考えている。

(委員) 高齢者で免許返納とかになった人がほとんど身動きが取れないという状
況の中で色々と考えていただいていることは非常にありがたいと思う。ナ
カちゃん号や加茂谷線の収支率はかなり低いように思う。補助金とかで賄
えていると思うが、収支率が低いから切り捨てられるようなことがあった
ら困るので、どうにか改善できないものかと思う。

(委員) 運転手不足や便数減等によって、地域によって交通空白が広がっている
という実態があり、今年度国土交通省の方では国土交通大臣をトップとし
て交通空白解消本部というのが立ち上がり、交通空白の解消に向けて様々
な方策を練って実施している。そのうちの一つとして阿南市を含む阿南交
通圏においてはいわゆる日本版ライドシェアというのが導入された。自家
用車を用いて一般ドライバーがタクシー行為を行うという日本版ライドシ
ェアの事業許可を取得した事業者が阿南市を含む阿南交通圏では2社ほど
出ており、今営業運転には至っていないが、そういった日本版ライドシ
ェアを初めとして交通空白解消に向けた様々な方策、あるいは今後法規制の
緩和や補助の話に広がってくると思う。交通空白解消については我々も今
後も本腰を入れて立ち向かっていくという気持ちをここで表明したいと思
う。

(委員) 交通空白の解消に向けた取り組みは大臣ヘッドで今後3年間で空白の解
消に向けて取り組んでいくというような感じになっている。日本版ライド
シェア、いわゆる自家用車を使って一般のドライバーを使えるというよう
な制度になっており、今タクシーの事業者は緑ナンバーで2種免許を持っ
ていないといけないと思うが、そこに至るまでの繋ぎ、入り口のようなと
ころで一般のドライバーの方が空いた時間等に輸送ができる人材確保の観
点から活用していただける部分もあるような規制の緩和を行っている。日
本版ライドシェアと公共ライドシェア、2つ合わせてライドシェアという
が、自治体等が主体となって、運行を行うようなライドシェアについても
見直しを行っており、今後3年間で国交省全体として取り組んでいくとい
うような形になっている。各自治体とお話させていただいたと思うが、今

まで運輸局はあまり自治体等と密接に絡んできてなかったところもあり、そこも反省点であると思っている。人材不足や高齢化等で交通空白が生じている対策として今後真剣に考えていかないといけないと思っている。

旅客船のドック入りのときの代替船については、知床の事故を受けて法令の改正があり、安全設備の方で船に備える設備の要件が厳しくなった。旅客船の船に使える安全設備として法定無線の設備が必要になるが、この辺りの近くで代替船となるようなものがなく、旅客船の扱いではなく海上タクシーという形で運行を代替輸送している。その点について解決策というのが難しいところではあるが、課題をこちらでも認識しており、何らかの打開策が見つけられればと思っているので、今後もその点については検討していきたいと思っている。

(委員) 国道としては渋滞が公共交通のネックになると思っており、渋滞解消に向けて国交省も頑張っていきたいと思っている。

(委員) 加茂谷線であれば乗り降りする場所が一緒に、どちらかの方向にバス停があって逆側の方は渡って安全な場所でお待ちくださいというような形で、バス停はどちらにもあると思っていたが、2車線の道路であろうがそういった形のバス停の配置の仕方が基本になっているのか。

(委員) 基本的に向かい側とかで地権者の方とかから許可が取れる場合であれば置いている路線もあるが、最近置かせてくれるところも少なくなってきた、片側になっているところが多い状態である。

(委員) 道路管理者としては走行時の安全性も重要だが、乗降する場所の安全性もあり、この間見たバス停も外側線が消えてたりして非常に乗降にも危ないかなという場所があった。そういうことも踏まえて外側線や中央線が消えているようなバス停についてはしっかり確認しながら、ラインを引けばより安全性が向上するのでそういう視点で整備にしていきたいと思う。

もう一点、収支率について、利用者数が増える計画にされてるので当然収支率も増えてくるという考え方か。

(委員) 収支率については、本来利用者が増えれば改善していくところではあるが、昨今経費の増加がかなり大きいということもあり、利用者は増えているが収支率は低下しているような状態が起こっている。

(委員) ガソリン等の経費も上がっているので、今の経費が増えていることを反映して収支率もある段階で見直すというのもありと思う。そうしないと目標の23.4%に対しての議論は出来ずに、前年度に対して合わせて何%上

がったということになると目標があまり意味がないので、今のベストな時に見直されていれば、収支率も下げて議論もできると思う。

(委員) 運転手不足などが顕著になってきているという話を受け、バス運転手やタクシー運転手になるときの免許費用の支援の取り組みを進めている。加えて担い手の確保については様々なアプローチも必要ということで、四国運輸局に協力いただき、自衛官の方向けに運輸業界の業務説明会やバス運転手の運転体験会を開催する予定で進めている。広くいろんなアプローチし、担い手の確保の取り組みを協力いただきながら進められたらと考えている。

(委員) 地域の公共交通を活性させるというところで、道路交通の安全と円滑を図るということも警察の責務であるので皆さんと協力して活性化を図りたいと思う。

(委員) いろんな手段で組み合わせていくときにニーズの把握が非常に重要と感じている。乗降調査とか利用状況を整理されると思うが、何人乗っているということも非常に重要だが、どのバス停からどこまでいく人がどれぐらいいるかという細かなニーズの把握が非常に重要であり、そこから優先すべき停留所間の移動というのが見えてくると思うので、精緻なニーズの可視化が非常に重要だと感じている。やはりニーズが高いようなところから改善を図っていくというのが現実的な話で、それがゆくゆくは利用者増にも繋がっていくと感じている。

例えばタクシーの利用者のデータやバス利用をしてるデータは現在どういう形で整理されていて、その組み合わせは可能なのか。分かる範囲でよければ教えていただきたい。

(委員) 今時点での乗降調査の内容は乗務員が手書きで書いているのでどこから乗られてどこで降りられたっていうのがはっきり取れている状態ではないが、今後乗降センサーの機械により、どこの停留所の利用が乗車数多くて降車数が多いという形にはなるが、データは取っていくことができるようになると思うので、また見えるようにしていけたらと思っている。

(事務局) 乗合タクシーの利用データはどこから乗ってどこで降りたかとか、何時に使ったかとか、全てのものについては把握しているようになっている。それを基に今後の実証運行のあり方や交通モードのあり方について検討していきたいと考えている。

(委員) その後ニーズも大事だが、タクシーの台数などの供給量とのバランスを

取っていかないといけないというところもある。難しいがニーズがあるところと供給量みたいなバランスをどう考えていくかも今後議論が必要だと思った。その辺りも協議会で検討していけたらと思う。

(委員) 今阿南市にタクシー券を出してもらっているが、利用者は多い。だから継続のお願いしてあるがどうなったか。

(会長) 市の事業であり毎年検討していきっており、今のところ廃止という話ではないと認識しているが、今まさに来年度の予算編成に向けて進めているところ。

(委員) お願いとして、65歳以上となっているのを年齢下げてもらって60歳に。それと年収の基準、免許証の有無も撤廃してほしい。そうしたらますますお客さんが増えると思うし、利用できると思う。のりあいタクシーもやっているが思ったほど利用していない。でもタクシー券だけは思った以上。年金が出る月は特に多く、高齢者はこれを頼りにしているというのがすごくわかる。今まで長距離を家族に頼んだりしてたのを自分で呼んで、自分で乗っていけるというすごく大きな利点があると思う。だから乗ってるお客さんはいきいきしている。だからこれはできたら財源がある限りは続けてやってほしい。要件をなくしてもらいたいが、それでも使わない人は使わない。もう少し門戸を広げてやってもらいたいと思う。

(会長) それぞれの立場から貴重な情報、そして具体的なアイデアをいただき、皆様とともに情報共有、課題共有が出来たように思っている。いただいたご意見・ご提言については、阿南市の公共交通関連施策にしっかりと検討して反映してまいりたい。

閉 会

(事務局) 以上をもちまして、「令和6年度阿南市地域公共交通活性化協議会 第2回会議」を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上